

お薦めサイト

① フアイサー・イ

黄金の三角地帯からルアンパバーンまでは1泊2日の渓谷を流れるメコンクルーズ。

② パクベン

メコンクルーズはこの小さな美しい町で夜を明かす。

③ ルアンパバーン

メコンとその支流ナムウー川、ナムカン川による水運はライフライン。今も人々の生活に欠かせない。

④ ビエンチャン

ラーンサーン王国は1560年にルアンパバーンから遷都。ラオ民族はメコンにこだわり続けた。

⑤ カムアン

メコン河畔の県都タケーはコロニアル風の小さく美しい町。

⑥ サワナケート

メコン河畔のクメール遺跡ファンヒンとメコンの果樹島は1,000年前にタイムスリップ。

⑦ チャンパサック

メコンの大滝コーンパベン、4千の島、コロニアル様式のチャンパサックの町、シルク織物の島、チャンパサックはメコンの魅力で溢れる。

旅の基本情報

正式国名: ラオス人民民主共和国

(Lao People's Democratic Republic)

面積: 約23.7万平方キロメートル (ほぼ日本の本州の広さ)

人口: 約626万人 (2010年推計値)

首都: ビエンチャン

気候: 熱帯モンスーン気候

緑の季節 (5月~10月)、爽やかな季節 (11月~4月)

民族: ラオ族を含む49民族

宗教: 仏教 (国民の約67%)、精霊信仰など

公用語: ラオ語

使用言語: ラオ語、タイ語、英語、フランス語など

時差: 国際標準時 + 7 時間 (日本から 2 時間遅れ)

通貨: キープ (Kip)

電圧: 220V/50Hz

通信: 主要都市では電話、携帯電話、インターネット可

ビザ: すべての国際空港と国際国境で入国時にアライバルビザ取得可 (日本国籍で15日間以内の観光はビザ不要)

空路入国: 国際空港 (4ヶ所): ビエンチャン (VTE)、ルアンパバーン (LQP)、サワナケート (SVK)、パクセ (PKZ)
バンコク、ハノイ、シンガポール経由ほか

陸路入国: タイ、ベトナム、中国、カンボジア (計17ヶ所)

(2011年11月現在)

詳細については

www.lao.jp (日本語)

www.tourismmlaos.org (英語)

www.ecotourismmlaos.com (英語)

www.facebook.com/visitlaos.jp

 Visit Laos Year 2012 (JP) (日本語)

ラオス情報文化観光省

観光マーケティング・プロモーション局

P.O. Box 3556, Lane Xang Avenue, Vientiane, Lao PDR

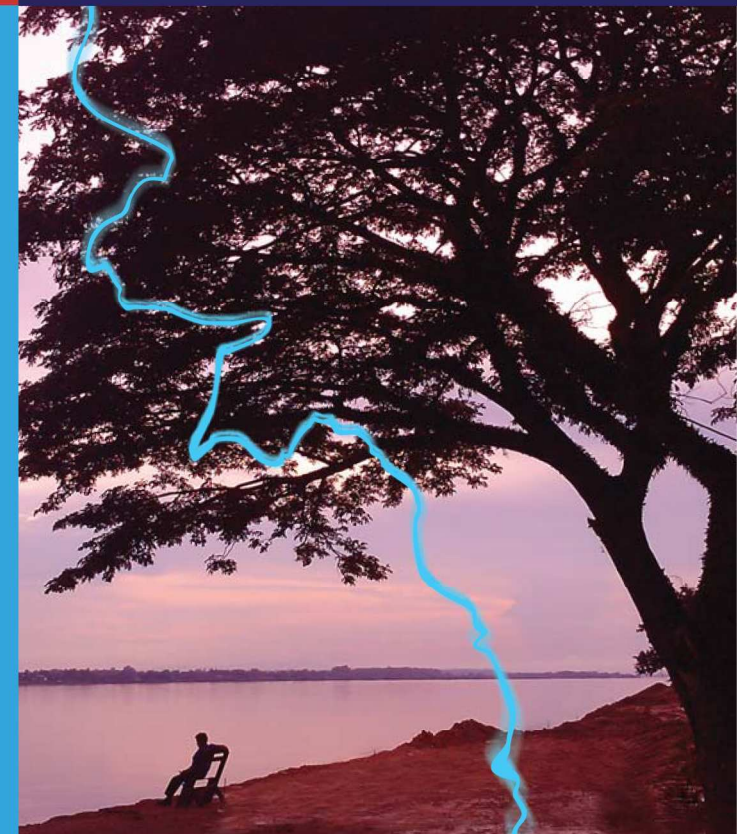


Think World Think Tomorrow 2011年12月



大河メコン

ແມ່ນ້ຳຂອງ



大河メコン

ແມ່ນ້ຳຂອງ

母なる川は北から南へゆっくりと流れる。
メコンはラオスの心。

チベット高原に源を発し、中国雲南省を経てインドシナ5ヶ国を貫く全長4,800キロメートルの大河メコンはラオスでもっとも長距離を擁している。「母なる川」、「悠久のメコン」と讃えられてきたメコンはいつの時代にもこの地で生きる農民と漁民の暮らしを支え、また交通輸送の動脈としても歴史を彩ってきた。

北部と南部では、豪華なクルージングボートがメコン川クルーズを運航している。洗練されたラオス料理やフランス料理を味わいながら個室キャビンで安眠できる。海洋クルーズとは異なり波もなく滑るように進む船上からは、原生林や川辺の小さな村が目の前に展開し、水牛の群れや網を打つ漁師が手の届くほどの距離に迫る。人々の笑顔が目焼きつく。まさにメコンならではの船旅だ。

メコンは、また、ラオスに近代も運んできた。メコンに沿って町が築かれ、蒸気船が行き来した。河畔の港は近代へ通じるドアであった。時代は変わり水運は廃れ、町の中心は移ったが昔日の面影とスローな時の流れが旅人の心を癒してくれる。



1	2
3	4
5	
6	

1. シーパンドンには多くの漁民の家族が暮らす。素朴で平和な人々の暮らし。
(チャンパサック)

2. メコンの恵みは人々の暮らしを支えてきた。



3. 大河メコンでリラックス。
(チャンパサック)

4. 快適な船でクルーズ。船上からはメコンと生きる人々の暮らしが垣間見られる。

5. 黄昏時のメコンを望む。至上の時。
(サワナケート)

6. メコンが近代を運んできた名残は各地に見られる。(ルアンパバーン)

(表紙)メコンのほとり、悠久の時を回想する。
(ピエンチャン)